

# 奈良県営水道“ぷらん2019”の変更に関する 政策検討会議 委員意見

## 1 「安全でおいしい水道」について

- 業務の集約化のための業務の外部委託を推進するとしているが、水は生命に関わる問題であるという観点から、委託する業務の選択にあたっては、十分な検討をされたい。

## 2 「災害・事故に強い水道」について

- 想定外の事態になり、100%県営水道したために大変なことになったということがないように、より一層安全面に配慮されたい。
- 県営水道に100%転換した場合、市町村には、自己水がまったくないという状態になり、安全面で懸念がある。ついては、災害や事故等が発生した場合でも、市町村への給水に支障がないよう、安全対策に取り組みされたい。

## 3 「経営が安定している水道」について

- 収支が黒字でも、直ちに料金の値下げができないことを、県民に理解してもらいにくいのは、水道会計が非常に分かりにくいことに加え、県民によく知られていないことが原因であると思う。この計画の変更を機会として、水道局は県民にわかりやすく説明していくべきである。
- 今後、水道の経営が厳しいものとなるが、県民に、安い安心できる水を供給できるよう努力されたい。
- 最適化を早く実現するためにも、最適化が実現した場合、最終的にどれくらい料金が安くなるのか算出し、市町村に提示されたい。さらに料金の値下げが可能なのか知りたい。
- 安い料金で水が供給されることは多くの県民が望んでいることであるので、料金引き下げに努力している点は評価している。
- 人口減少による需要減で、県営水道に対する水の需要は、ますます減少すると予測される。今後、大滝ダムの建設に関する借入金の返済など経費の増加が見込まれるなかで、県営水道の安定的な経営に努められたい。

## 4 その他

- “ぷらん2019”は平成31年度までの計画であるが、今回の変更には、上位計画が策定されたことや平成34、35年度の莫大な設備投資が見込まれることなどが全て関連している。建設委員会ではこのあたりを整理して、時系列的に説明していただきたいと思う。
- 占有率拡大を目指してきた計画を、市町村との連携に重点を置いて修正しようとすることは妥当である。